

月刊島民

中之島

Vol.90 2016 1/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



山崎豊子があるく。



ナカノシマ大学

「適材適酒

—沢の鶴 きき酒セミナー—」

矢吹道行

申し込み受付中!

「私は大阪で生まれ、大阪で育ち、大阪で就職し、大阪で作家となった」(エッセイ『大阪づくし 私の産声』「はじめに」より)



山崎豊子、中之島を行き来する。

『白い巨塔』や『華麗なる一族』、『大地の子』に『沈まぬ太陽』…。大阪を拠点に、戦後日本の社会に対して鋭く問題提起する作品を数多く残してきた作家山崎豊子。2013年に89歳で亡くなった彼女を追悼し、この1月には大阪と京都の高島屋で展覧会が開催される。船場で生まれ育ち、堂島で働く島民だった山崎豊子の足跡を、大阪が舞台の名著とともに今こそたどろう。

取材文／江口由夏 中島淳本誌 写真提供 取材協力／新潮社 参考文献 写真流用／『山崎豊子スチラルガイドブック』(新潮社)

大阪駅

職場と住居をつなぐターミナル。

山崎は船場にある実家から市電で堂島に通動していた。昭和初期の大阪駅はすでに今の東海道本線・大阪環状線・福知山線がつながる一大ターミナルであったが、山崎が利用していた頃は軍事色に染まっていたはずだ。戦後は闇市が立ち並び、食料調達が目的の人であふれかえていた。



貨物から旅客へ。3階建てコンクリート造りの駅舎は戦前から昭和50年代まで。写真提供／大阪市立中央図書館

御堂筋

生き延びた大阪大空襲。

山崎の記憶に深い爪痕を残した「戦争」。後期の「戦争三部作」だけでなく、初期の大阪ものには大空襲の場面が多く登場する。登場人物たちがなすべくなく自分たちの店が焼けていくのを見守るのは、かつての山崎のもの。当時の日記からは、命からがら燃え盛る家を脱出したこと、「御堂筋は既に両側は火の海」だったことの記述が。間一髪で母とともに地下鉄御堂筋線に飛び込み、臨時運行で大阪駅に避難したと書かれている。

相愛女学校

徒歩10分、買い物はツケの通学路。

「船場は大阪の大商人の街ですからみな女中さんやほんさんのお伴で学校へ行きました。」(エッセイ「大阪に生きる」より)。

山崎が通っていたのは、現在の相愛中学校・高等学校の前身。実家からは歩いて10分だったという。さらには「あたりが同じ船場地区の商店街だから何でもツケで買えた」とエッセイで振り返り、女学校時代は財布を持つ必要がなかったと語っている。だから、京都の大学に進学したことで財布と少くない小遣いを持たせられたときは相当嬉しかったようだ。



制服姿の山崎(右)。現在は一新されたが、当時はモダンな制服だった。



山崎豊子とあのビルは 小倉屋山本の傑作です。



空間デザイナー
関宮吉彦さん

1990年代から
南船場の店舗を
数多く設計してき
た関宮さんは、93
年に小倉屋山本

本社のオーガニックビルが誕生した
ことで南船場が大きく変わったと語
る。「北海道の海産物を、ダシ。や
ご飯の友。に変える編集力が小倉屋
山本の凄み。ガエターノ・ペッシェ
に本社を設計させるパトロン性もそ
の編集力の表れです。昆布屋がオー
ガニックとは道理だし、実に南船場
らしい建物ですね」。20代の頃から
山崎豊子の読者だった。「『暖簾』
も『ぼんち』も
『船場狂い』
も街のとても
いい教科書。
下駄を鳴らし
たり暖簾をく
ぐったりする
音も聞こえて
きそうです」



毎日新聞社

〆調査癖、が花開く記者時代。

学生時代は教師を目指していた山崎だったが、
戦局の悪化により軍需工場以外での就職が困難
に。伝をたどって入社したのが、堂島にあった毎
日新聞大阪本社だった。

そこで山崎は、先輩記者の井上靖（作家）と
運命的な出会いを果たす。井上は、遅筆だった
山崎の資質を見抜き、じっくり時間をかけて調
査する企画記事を担当させた。緻密で膨大な取
材を行うことで知られる作家・山崎豊子は、こ
こから生まれた。また、記者生活の間に山崎は
『暖簾』で文壇デビューするが、その構想は執
筆に着手する前から井上に打ち明けていた。
「自分の生立ちと家のことは書けるものだ」と
ハッパをかけたのは井上。その言葉を追い風に、
山崎は7年かけて作品を完成させた。



毎日新聞社の資料庫で調べ物をする
山崎。終戦後の昭和女工などを執筆
テーマに取り上げた。

フリーゼ
フリーゼ



OB会での山崎と井上
(左)。在籍当時の毎
日新聞社(右)には、
手塚治虫も原稿を持
ち込んだ。



渡辺橋駅

国立国際
美術館

小倉屋山本

〆船場のいとはん、山崎豊子。

かつてあった新町橋のたもとで、嘉永元年（1
848年）に創業した老舗昆布屋が山崎の家だ。
四代目である山本博史氏は山崎の甥にあたる人
物である。

この家で育ち、船場での生活に浸っていた
からこそ、初期の山崎作品が生まれた。まさに
デビュー作の『暖簾』は実家の家業を参考にし
たもの。残念ながら昭和20年（1945）の大阪大
空襲で店は焼失してしまったが、松屋町筋で店
を興した後、10年越しに創業の地で再興した。



写真提供／小倉屋山本



焼失した後、昭和30年（1955）に創業当時の店構えで、新町橋のたもとで復興。

靱永代浜
[P4「暖簾」]

土佐堀通

あみた池筋

靱公園

なにわ筋

阿波座駅 中央大通 地下鉄中央線

地下鉄長堀鶴見緑地線

西大橋駅

生まれも育ちも大阪つくし！
巨匠山崎豊子の履歴。

1924

・大阪市南区（現在の中央区）船場の老舗
昆布屋「小倉屋山本」に生まれる。

1936

・蘆池小学校（現在の大阪市立南小学校）
卒業

1941

・相愛女学校（現在の相愛中学校 高等学
校 卒業

1944

・京都女子専門学校（現在の京都女子大
学）を卒業。

・毎日新聞大阪本社調査部に入る。

1945

・大阪大空襲。異動先の学芸部で、副部長
の井上靖に指導を受ける。

1957

・勤務のかたわら
執筆した『暖簾』
（P4）で作家デ
ビュー。



暖簾
(新潮文庫)

1958

・『花のれん』(P4)で第39回直木賞を受賞。
毎日新聞社を退社し、作家生活スタート。
・映画『暖簾』が森繁久彌主演で公開。



天満天神繁昌亭がある大阪天満宮裏は、江戸時代から芝居小屋が多く、芸能が発展しやすい場所だった。

ザ・大阪芸能史。

- ・大阪天満宮裏で寄席づくり
- ・芸人を待ち構えた四ツ橋交差点



あらすじ●働き者の多加は船場の商家に嫁ぐものの、道楽好きの夫が店を潰してしまう。多加の提案で寄席を商売にするが、夫は多額の借金を残したまま妾宅で急死。多加は商売の駆け引きを覚え、たくましく寄席を大きくしていく。

逆境を自ら切り開く女主人公は、吉本興業の創業者・吉本せいモデルと言われる。昭和初期まで、大阪天満宮の裏門付近には「天満八軒」と呼ばれる見せ物小屋があり、その一つが吉本興業のルーツとなった。

記者を続けながら貴重な休みの日曜日を執筆にあて、本作品で直木賞受賞。普段取材する側の山崎の元へ、報道陣が詰めかけた。井上靖も速達で「おめでとう、橋は焼かれた」と激励し、作家として後戻りはできないことを示唆した。

執筆依頼が舞い込み、己のペースを鑑みてもはや記者と作家の両立はできないと毎日新聞退社を決意した山崎。担当編集者に「この題名では東京で受けが悪い」と却下されながらも押し通した小説の題材は、やはり船場。今では想像できないような粋な女遊びなど、船場ブランドを練り込んだ。作家一本と決意した直後の作品だったせいか、プレッシャーは相当だったようだが、後に市川崑監督・市川雷蔵主演で映画化し、話題になった。ハワイ大学からの依頼で英訳も。

船場商人の経済学。

- ・モデルは実家の小倉屋山本
- ・海産物と商人が集まる朝永代浜



あらすじ●船場の昆布問屋の丁稚・吾平は努力が認められて出世し、暖簾分けを受けるも、戦争で店や長男を失う。跡を継いだ次男の孝平は店を再興するため、戦後の混乱期から高度成長期を独自の才覚で乗り越えようとする。

自身が「大阪商人史」と語るとおり、命と等しく大事な暖簾を守る父と、時代に合わせ先進的な商売手法を打ち出す息子、相反する二代の物語。毎日新聞勤務時代、毎朝5時に起きて執筆してから出勤した上司の井上靖の影響で、山崎は実家まわりの素材に7年かけて処女作を書き上げた。大阪大空襲で多くのものを失った生家と、失われてしまった「船場」への哀悼が、誰かに伝えなくてはと使命感に駆られた山崎の筆を走らせたのだろう。

『暖簾』の創作ノート。実家に取材したと思われる昆布つくりの工程が記されている。



主人公が結婚式を挙げた難波神社。山崎も夏祭りの思い出をエッセイで綴っている。

山崎豊子、船場に執着する。

「私がものを書きはじめるのなら、ここからしか出発できないと思います」(『暖簾』あとがきより)

デビュー作の『暖簾』を始め、初期作品に共通する舞台とテーマは「船場」。船場というバックボーンが、山崎豊子の取材力と創作意欲を養ったといえる。

取材文／江口由夏(本誌)

1965 ●『白い巨塔』(P6)刊行。翌年、田宮二郎主演で映画が公開される。

1964 ●『花紋』刊行。前年に第2回婦人公論読者賞受賞。



花紋 (新潮文庫)

1963 ●『女系家族』刊行。『白い巨塔』がサンデー毎日で連載開始。

1962 ●生涯の付き合い合いとなる野上孝子氏が秘書となる。

1960 ●『女の勲章』連載が毎日新聞朝刊で開始。翌年刊行。同年、取材のため渡仏。パリで記者時代の先輩と挙式。



女の勲章 (新潮文庫・全2巻)



山崎豊子ラブ①
北村知之さん(スタンダードブックストア あべの)

「上げつないまでの船場言葉が、癖になってしまいました」

山崎作品は映画「ぼんち」がきっかけ。商部・大阪から船場に切り替わる冒頭シーンが印象的でしたね。いざ原作小説を読んでみたら、飛び交う船場言葉のキツさに神戸出身の僕はびっくりしてしまいました(笑) 今では大阪ものが一番好きですね。こんな書き方ができるのは、山崎さんだけだと思います。

1959 ●短編集「しづちゃん」翌年にかけて『ぼんち』刊行。
●大阪府芸術賞を受賞し、市川雷蔵主演で「ぼんち」映画化。

船場が育てた、 山崎豊子のテクニク。



相愛大学
日本近代文学研究
荒井真理亜さん

相愛大学で教鞭をとる荒井さんは、同学のOGだ。山崎豊子が先輩

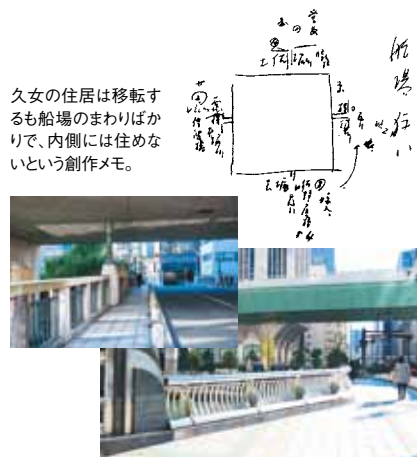
であることを学生たちに知ってもらい、大阪文学に関心を持ってもらえればと考えている。

「初期の『暖簾』や『花のれん』が支持されたのは、発表された戦後という時代背景も関係しています」。比較対象として『春琴抄』『細雪』で船場を描いた谷崎潤一郎を挙げ、「戦争で失われた街も、そこで生まれ育った山崎だからこそ生々しく書けたし、読者もそれまで知ることができなかった世界に興味があったと思います」。

また、「大阪は筋が一本違うだけで雰囲気が変わる。そんな大阪を巧みに表現しています。特に、川が“結界”になっている船場の描写。文学では橋が別世界への入口を意味する場合がありますが、『船場狂い』の肥後橋や『ぼんち』の新町橋など、山崎は橋を使って街を書き分けていますね」とも。確かに橋を渡るとき、山崎作品の登場人物たちの心には変化が起きる。船場の橋は、巨匠の心情描写に一役買っていた。



『花のれん』の四ツ橋は、かつて存在した長堀川と西横堀川をつなぐ4つの橋の総称。写真提供／大阪市立中央図書館



久女の住居は移転するも船場のまわりばかりで、内側には住めないという創作メモ。



東横堀川の大手橋(上)と土佐堀川の肥後橋(下)は、久女の心情を表す小道具になっている。

外から覗いた船場。

- ・肥後橋から眺めた憧れの街
- ・大手橋が叶えた船場暮らし



あらすじ●「しぶちん(大阪弁でケチ)」と呼ばれながらも倏約して出世する山田万次郎が主人公の表題作ほか、大店が立ち並ぶ船場に憧れを抱く久女の執念と、船場という価値観の崩壊を描く「船場狂い」など五編を収録。

直木賞受賞直後、受賞義務としてホテルに缶詰となって書かされたと言われる短編。特に真っ先に世に出た「船場狂い」は、船場の外側に住む女主人公の視点から、船場がいかに独特で特別な場所かが伝わってくる傑作だ。

戦争によって船場のかつての姿が消え去った後でも、彼女の船場に向けた羨望が消えないのが、一途でなんとも悲しい。しかしそれは、暖簾ありきの船場の姿が失われたことを嘆く、山崎自身の思いなのかもしれない。

船場らしい遊び方。

- ・ぼんち、難波神社で結婚
- ・芸者遊びは新町橋を渡って

あらすじ●老舗足袋問屋の一人息子である喜久治は、父の遺言にあった「ぼんち(放蕩を重ねても懐疑の合った遊び方をする男)」として生きようとお茶屋通いを重ねる。船場の格式を重ねる母らと喜久治、5人の妾をめぐる長編。



船場の格式たるもの。

- ・船場の葬式が読みどころ
- ・調査癖がすぐた大阪格



あらすじ●代々の跡継ぎ娘が婿養子を迎えてきた「矢島商店」。その社長が急逝し、莫大な遺産の相続をめぐる関係者が一堂に会した。明らかになった身重の愛人の存在に、事態は急転。女たちによる骨肉の争いが幕を開けた。

デビュー以来、船場を舞台に選んできた山崎の“大阪もの”は、この作品をもって終幕。最後は、船場のしきたりに最も深く足を踏み入れ、取材量も膨大に。家族愛より家業の存続を優先する「女系家族」の異様さや、冒頭で行われる葬式の描写には特に力を入れ、船場の古老たちに取材。山崎は知人に「あれは逆細雪」と語った。

加えて、法律関係の講義を受けて猛勉強。これが本作のどんでん返しに効いてくるのだが、人間悪から社会悪へ、後の大作に繋がる気配がする。山崎作品の中で最も多くドラマ化された。



山崎豊子ラブ②
山口望さん(スタンダード
ブックストア あべの)

「リアル感を伴って
読者に迫ってきます」

俳優の渡辺謙さんのインタビューを読んだ『沈まぬ太陽』、次に『大地の子』と、社会派作品に親子でハマりました。遠い国や昔の出来事なのに、決して他人事とは思えないリアルさ。壮大な物語の底に、家族との絆がテーマにあります。『大地の子』の父子の再会のシーンが特に好き。

第39回菊池寛賞受賞。

1991
●連載中に第52回文藝春秋読者賞を受賞し、『大地の子』刊行。



大地の子
(文春文庫／全4巻)

1983
●『二つの祖国』刊行。翌年のNHK大河ドラマ『山河燃ゆ』の原作に。



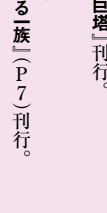
二つの祖国
(新潮文庫／全4巻)

1976・1978
●『不毛地帯』刊行。田宮二郎主演の「白い巨塔」が話題に。



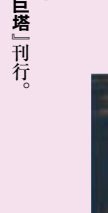
不毛地帯
(新潮文庫／全5巻)

1973
●『華麗なる一族』(P7)刊行。



華麗なる一族
(新潮文庫／全5巻)

1969
●『続白い巨塔』刊行。



続白い巨塔
(新潮文庫)

1967
●『仮装集団』刊行。『続白い巨塔』をサンデー毎日で連載開始。



仮装集団
(新潮文庫)

「名前一つで、その人のイメージが顔形から体臭まで浮かぶようになりませんか」(取材方法と小説作法より)



久坂部羊さんは阪大医学部生の日々を「中之島ふらふら青春記」として本誌に連載。『ブラック・ジャックは遠かった』(140B)という書名で書籍化。

威厳そのものの「ザ・教授」
「私が大阪大学医学部に入学した時から第二外科の教授でした。『財前』と違って人を押しのけて、というタイプではなく囁望されて阪大の教授になった方です。謹厳

物語の舞台「浪速大学医学部」は、かつて堂島川の畔にあった大阪大学医学部であることは誰もが知るところ。その阪大医学部第二外科の教授には主人公と一字違いの神前五郎氏(1919-2015)がいた。氏は一部のマスコミから、「白い巨塔」のモデル」だと最後まで誤解されていたようだ。



旧ダイビル本館から田養橋と堂島川を隔てて望む大阪大学医学部附属病院(1969年)。

実直で温厚、それでいて威厳のある人でした」と作家の久坂部羊さんは語る。久坂部さんは阪大在学中の当時、田宮二郎が財前を演じていたドラマ『白い巨塔』を観ていた。国民的人気番組だったから「一字違いの第二外科教授」に素朴な質問をする学生がいてもよさそうな気がするが。

「今の僕やったら聞いていたかもしれないけど(笑)、教授は医局の天皇陛下でしたから、そんな雰囲気ではなかったですよ。感情を表に出さない人でしたが、手術室では教授がイラッとした瞬間に緊張がビリッ

「野心ギラギラ」とは真逆だった 第二外科五郎先生の微笑。

取材文/中島淳(本誌)

と走る。引退しても、医者としての矜持を失わない。とにかく凄人でした」

モデルやねんも柳に風。

威厳の塊のような教授が白衣を脱ぎ、関係者がいないところではリラックスして顔がユルむことはよくある話だ。しかもその場所は本誌でもおなじみ、大正10年(1921)創業の船場の名店「平岡珈琲店」だった。「コーヒーがお好きで、お一人でも、若い先生ともよく来られていました」



「平岡珈琲店」店主の小川清さん。「あの頃(70年代)はのんびりしたものでした。神前先生の電話で、阪大医学部まで何度か出前していましたよ」

現店主の小川清さん(58)が中学から高校の頃によく来店していたようだ。

「常連に口の悪い船場の旦那衆が揃っていましてね。先生に向かって、どうですか財前教授、などと茶々を入れる。挙句の果てには、この人、あの小説のモデルやねん」

と囁す。でも先生は柳に風、まるで動じずニコニコしておられました」(小川さん)

実は財前敗訴の協力者

「財前のモデル」は心外であろうに……。ところが神前先生と『白い巨塔』との関係は意外なところにあった。山崎の秘書を50年以上上務めた野上孝子さん(P8)の「山崎豊子先生の素顔」(文藝春秋)には、阪大教授就任(1975年)前に大阪府立成人病センターで消化器外科部長であった神

前先生を彼女が訪ねた時のことが登場する。

「神前五郎」先生は、財前五郎のような野心的で傲慢な性格とは正反対の、それこそ里見のように誠実で温厚な外科医なのだ。

訪問の目的は、「財前勝訴を(控訴審で)ひっくり返す方法」について指導いたたくというもの。「モデル」どころか舞台裏で主人公を追いつめていたとは神前先生、役者ではありませんか。今や叶わぬ話であるが、もし目の前におられたらぜひ「笑顔の理由」を聞いてみたいものである。

それでは、あの上昇志向の塊のような財前五郎のモデルはどこにいたのか？

「阪大には数多くいました。それまでの滅私奉公にひたすら耐え、教授の権威と力の両方を欲しがる人たちが」(久坂部氏)「財前」という名は映画「女系家族」のプロデューサーから。モデルとなった、噴門癌の権威でレントゲン造影術と手術が抜群に早い外科医は千葉大学の教授だったと、これも野上さんの著書に記されている。

白い巨塔

(新潮文庫/全5巻)

1960年代の大阪、浪速大学附属病院を舞台に外科医たちが繰り広げる「男の嫉妬」全開の権力争い。物語は主人公・財前五郎の「誤診裁判」を中心に展開、いったんは財前勝訴で完結したが読者の意見に動かされ、山崎は続編を執筆。荘厳なラストが記憶に残る。善玉の里見脩二は財前と何かと比較され、人気も常に二分した。財前役は昭和=田宮二郎、平成=唐沢寿明。どちらがハマリ役かはあなたの目で確かめを。



山崎豊子、名前に苦心する。

山崎作品の中で最も知られていると言っても過言ではない2作。作品名も登場人物名も「非常に凝る」と明言していた山崎だが、実はこの2作の主人公にも名前のモデルがいて、その人物は山崎と親しい関係にあった。

「華麗なる一族」の万俵です（笑）

7年ほど前、親友とその後輩と3人で食事したとき、初対面の万俵宏子さんは言った。木村拓哉主演で『華麗なる一族』が再びドラマ化（2007年放送）された直後のこと。万俵、いかにも資産家に似合いそうなこの名前はあの作品と関係があるのか。当時は聞けなかった作家と万俵家とのつながりを彼女の父、万俵満雄さんに伺った。

作家の親友の下宿先だった邸宅。



昭和12年(1937)、万俵家よりドイツ製の輸送機ユンカース160型「萬俵号」を軍に献納。東条英機より感謝状が手渡された。

万俵家は明治

初期、現在の神戸市中央区相生町で傘や提灯の製造や販売を営んでいた。大正末期に始めた石炭の商売が軌道に乗り、昭和に入ると九州や当

時の満州、朝鮮などに炭鉱を持つまでになった。石炭以外にも、親戚の中には酒、酢

の製造、アルゼンチンで事業を始めた人もいて、湊川神社に狛犬や、軍に輸送機を献納したりする人もいたほどだ。

昭和17年(1942)には現在の神戸市東灘区の青木に転居する。「大きな門構えと庭、広い調理場と13もの部屋がある家だったことは覚えていています」

もう一つの「万俵家」も

小説に負けないほど凄かった。

取材文／道田恵理子（本誌）

その家に、満雄さんの父・一雄さんの従妹で神戸銀行（現・三井住友銀行）に勤めていた大谷多美子さんが下宿をしていた。彼女こそが山崎と万俵家をつなぐキーマン。二人は旧制京都女子専門学校（現・京都女子大学）の学友で、昭和19年（1944）に卒業した後も親交が深く、毎日新聞の記者になってからも山崎は時々、青木の家を訪ねることがあった。「山崎豊子さんが遊びに来ていたことは父から聞いていました。私の従弟も山崎さんの紹介で結婚しています。縁の深さが垣間見られる。」

「小説と違って仲良し家族」

週刊新潮で『華麗なる一族』の連載が始まったのは、それから約四半世紀後の昭和45年（1970）。万俵の名が話題になり、満雄さんも仕事先でよく冷やかされたらしい。「青木の家は神戸大空襲で焼かれ、炭鉱の国策による吸収合併や戦後の没収などもあり、敗戦を境に無一文状態からの再出発と



満雄さんの父、一雄さんと俳優の山村聡（万俵大介役）は、神戸一中（現・神戸高校）の同窓生。初めてドラマ化（1974年放送）された時には、「不思議な縁だな」と話していたそうだ（神戸一中の同窓会にて。左より万俵一雄、山村聡）。

なりました。しかし、小説と違って親戚・家族が皆仲良く、力を合わせて頑張っていました。今は、ほとんどがサラリーマン家庭で戦前のような華やかさはありません。父は、我が万俵家の話を山崎さんが書いてくれたら結構面白い小説が書けたらうな

華麗なる一族

（新潮文庫・全3巻）

万俵財閥の総帥で業界第10位の阪神銀行頭取・万俵大介は業界再編の波の中、「小が大を喰う合併」を果たすべく、あらゆる手段を画策。当時「聖域」とされた銀行を、徹底的に取材して描かれた社会派小説。作品中の阪神銀行は神戸銀行、阪神特殊製鋼は1965年に倒産した（後に復活）山陽特殊製鋼だと話題に。大介役は映画では佐分利信（1974年）、2007年のドラマでは北大路欣也が人間の脆さと美しさを好演。



あゝと冗談混じりに話していました」と語る。あとがきに「小説に登場する銀行、官僚、政治家たちは、決して特定のものではない」と記されているように、万俵家は小説のモデルではない。しかし若かりし頃に目にした、神戸の豪商の記憶とその名前は、作家に少なからぬ影響を与えたはずだ。

お話を伺った万俵（正式には萬俵）満雄さん。読み方も「まんびょう」と小説（まんびょう）とは少し異なる。万俵姓の由来は、明治以前は屋号を萬屋と名乗り、俵介の時に、「萬」と「俵」から名付けられたと思われる。



「山崎先生は、こんな人でした」。

「天真爛漫で、取材の鬼」。関係者たちはそう語る。

亡くなる直前の山崎豊子を知る人々に、その人柄と仕事ぶりを聞いた。

取材・文／中島 淳(本誌)

●『女系家族』から最後の作品まで関わる



「それはおかしいです」と言えば、受け入れる度量のある方でした。

野上孝子さん
(元秘書)

小説家志望とか、文学に興味があったとかではなく、普通に就職活動していたら先生の秘書書になって、50年以上も続くとは思いませんでした。おしゃれな先生は服や帽子にも凝るし、お肉も大好き。でも一番好きなのは人間観察です。お生まれこそ船場の「いとほん」だけど、性格、行動力、発想は全然いとはんではなく、人食い(笑)。「これ!」という人に狙いを付けたら離さない。相手の都合もお構いなし。周りは振り回されて大変でしたが、難しいテーマの物語でも「男の嫉妬」などをうまく盛り込んで面白い作品にする手際が見事でした。



山崎豊子先生の 素颜

(文藝春秋)
1962年春、大学卒業前に「秘書、求む」の張り紙を見てから2013年秋に山崎が亡くなるまでの日々を「一番近くにいた人間」の視点で綴り、山崎作品の「もう一つの物語」として楽しめる。偉大な作家へのリスペクトと姉に対するような慈愛だけでなく、「かなわん人やなあ」的な記述も秀逸。

小説が売れて影響力が強くなってくると、チャホヤする人が増えます。そうなるとうち、勘違いしてしまう。秘書は恭しくお仕えしないといけないのだけど、「先生、それはおかしい」と言うのが私の役目でした。耳の痛いことでも「そうか。わかった」と納得されるところが先生の偉大なところで、すね。ほかの作家だったら「秘書ふぜいが」とクビになっていたかもしれない。でもその反面、先生と海外で買い物をするとき

●2009年から山崎豊子取材



『ムッシュ・クラタ』が大好きだと
言った時の顔は忘れません。

有本忠浩さん
(毎日新聞大阪本社学芸部副部長)

2009年秋、「運命の人」が毎日出版文化賞特別賞を受賞された時、浜寺のご自宅で初めてお目にかかりました。かつての「学び舎」の後輩が訪ねてきたためか、温かく迎えてくださり、新聞社時代に育ててくれた井上靖さん(作家、元毎日新聞大阪本社学芸部副部長)のことなども懐かしげに話しておられました。お部屋には取材旅行で買い求められたフランスの香水の瓶が飾られ、その中に「ゲラン」もあったはず。先生に「数ある小説の中で僕は『ムッシュ・クラタ』が大好きです」とお話ししたら、すごく喜ばれ



ムッシュ・クラタ

(新潮文庫)
毎朝新聞社外信部長の倉田玲は、戦後間もない時期に仕立てのいいスーツを着こなし、「フランスかぶれ」と陰口を叩かれる酒落者だった。学芸部記者である後輩の「私」は彼の死をきっかけに関係者への聞き取りを始める。単行本収録前にフィリピンで取材、山崎作品の中でひととき光彩を放つ中編。他に「晴着」「へんねし」「醜男」を収録。

て「あの小説はうまく書けたという思いが深くて自信作なの。感激です」と言われ逆に恐縮しました。主人公が手術台に向かうときにゲランのオーデコロンを振りかける場面や、記者として赴いたフィリピンの戦場で彼が見せたダンディーな精神力が死後、仲間によって語られるシーンが印象的で、何度も読んだ作品です。先生が亡くなった時に書いた評伝にも、あの作品の言葉から引用させていただきました。

1999
週刊新潮で連載
していた「沈まぬ
太陽」刊行。



沈まぬ太陽
(新潮文庫／全5巻)



山崎豊子ラボ③
二村知子さん
(隆祥館書店)

「信念を持つ人の物語を書き続けてほしかったですね」
刊行に際して、新潮社へ圧力があつたと当時話題になりましたね。16年前にご縁があり、主人公・恩地元の原型となった小倉寛太郎さんにお会いできました。信念をもって行動されている方の顔は、想像と違い、優しく目が澄んでいて、こちらまで清々しい気持ちになったことが思い出されます。

2009
『運命の人』が刊
行され第63回毎
日出版文化賞特
別賞受賞。



運命の人
(文春文庫／全4巻)

2013
・2年前より取材が始まった「約束の海」を、週刊新潮にて連載開始。
・同年の連載中に、89歳で死去。

2014
・完結していた原
稿を収録した『約
束の海』刊行。



約束の海
(新潮社)

ず、私が選んだ一点ものを「私も!」って横取りしようとしてくるんです(笑)。まだ先生にはお別れを告げていません。お墓に一人で行ったことがないんですよ。

『暖簾』や『花のれん』は20代のころから読んでいたので、いつかは山崎先生とお仕事をしたいと思っていました。

ちょうど2009年は『沈まぬ太陽』が映画に、『不毛地帯』がドラマになった時期でしたので「山崎豊子ガイドブックをつくりたい」とお話をもちかけたんです。編集集を始めてみると全集に収録されていない原稿も出てきた。それが「自作を語るシリーズ」として3冊のエッセイになりました。



●『約束の海』『山崎豊子スペシャル・ガイドブック』担当編集者

「アンタに殺されちゃうわ」「よっ天才!」どちらも先生です。

矢代新一郎さん
(新潮社・山崎プロジェクト室室長)

からなかったんです。先生のお宅で打ち合わせしているときに大きな声で「アンタと付き合っていると殺されちゃうわ!」と言われてビビりましたよ(笑)。秘書の野上さん(右頁)からは「冗談だから笑っていたらいい」とフォローしてもらいましたが、そして先生はよく食べる。お肉と鰻が大好きで、あのエネルギーは食べることでもついていたのだと思います。14時ぐらいに浜寺のお宅で2時間ほど打ち合わせしてそれから雑談タイムになると、サイコロステーキや押し寿司とお酒が出てきます。それだけでも結構な量なのにその後もいろいろ出てくるんです。山崎先生の担当になった時には、前任者から「死ぬなよ」と一言ありました(笑)。彼も前の人から言われていたように、サイコロステーキや押し寿司とお酒が出てきます。それだけでも結構な量なのにその後もいろいろ出てくるんです。山崎先生の担当になった時には、前任者から「死ぬなよ」と一言ありました(笑)。彼も前の人から言われていたように、サイコロステーキや押し寿司とお酒が出てきます。それだけでも結構な量なのにその後もいろいろ出てくるんです。

名より実、ホメ上手、阪神好き。

仕事に厳しい半面、寛容なところもたくさんありました。先生は「やまざき」ですが「やまざきさん」と言われても怒らなかった。アメリカ出張取材でも「どうせ寝に帰るだけだからビジネスホテルでいいわよ」という具合で。原作をドラマ化される時も台本に細かく口を出すというより、むしろドラマとして面白くなれば原作を少しいじってもOKという人でした。名より実そのあたりが大阪人なのかなと思います。そしていい取材対象者を見つけてきたり、いい資料を提出したりしたら、大声で「よっ天才! 編集者」とホメる。さらには「アナタは、へその緒を切ったときから編集者ね」とまで持ち上げる(笑)。それまでの苦勞が吹っ飛んで、「十倍働こう」という気になりました。また本当にイケメンが大好きで、俳優では『沈まぬ太陽』主演の渡辺謙や、ひいきの阪神タイガースでは能見投手のファンでした。

船場の財産は素晴らしい。

私は生まれも育ちも東京で、テレビの「お笑い」を通じてしか大阪を知りませんでした。が、先生の作品を読むと全然違う大阪が見える。大阪の中学生以上の人にはみな、『暖簾』や『花のれん』を読んでもらえた

新しい本をつくったことで先生もまたやる気が湧いてこられたのでしょう。「小説を」とお願いしても「私ももう歳だから」となかなかOKが出なかったのですが、「手足となって、目と耳にもなって動きますので」とさらにひと押しして『約束の海』を引き受けていただきました。こちらの「信用」をはかっておられたのでしょうか。暖簾を重んじる大阪商人らしいと思います。

冗談と食欲と深夜の電話。

最初は冗談の好きな人だということが分

てきたことはなく、秘書の野上さんと、毎日メールでやりとりして



山崎豊子 スペシャル・ガイドブック

(新潮社)
主要な作品を全解説。既読のもの「もう1回」、未読なら「読みたい」と思わせるサービス精神満載のガイド。若尾文子(ぼんち)、唐沢寿明(白い巨塔)、仲代達矢(不毛地帯)、渡辺謙(沈まぬ太陽)、本木雅弘(運命の人)ら豪華俳優陣の「山崎先生と私」も読み応えあり。息抜きのページも楽しい。

いよいよ「本家」関西へ。京都・大阪で「追悼 山崎豊子展」。

すでに東京と横浜で開催され、好評を博し9万人が訪れた山崎豊子展。プライベート写真、全作品出版年譜、直筆原稿、取材ノート、万年筆などの愛用品や、「戦時下の青春を綴った貴重な日記」が初公開される。『大地の子』『運命の人』の編集者・平尾隆弘さん(文藝春秋文庫編集長)は「彼女が生まれ育った【小倉屋山本】の模型を見ると、ここがすべての始まりだったのだと分かります。船場で暖簾を掲げ、その暖簾を守るために次々と新天地に挑戦していった先生の作家人生は、信用を重んじる船場の商人そのもの。56年間のうち中長編は全部で17作品と少ないのは、1本に費やす時間とエネルギーが他の作家とは全然違ったからです」と語る。著書も販売。京都では京都女子高等専門学校時代の写真も特別展示される。



追悼 山崎豊子展～不屈の取材、情熱の作家人生～

1月6日(水)～18日(月) 京都高島屋7階グランドホール ☎075-221-8811(代)
1月20日(水)～2月1日(月) 大阪高島屋7階グランドホール ☎06-6631-1101(代)
一般800円 大学・高校600円 主催/NHKプラネット近畿、京都新聞(京都会場)

●島民読者を大阪会場へご招待! 20組40名様に大阪会場のチケットをプレゼントします。住所・氏名・電話番号・今号の特集の感想をお書き添えのうえ、ハガキもしくはFAXで島民プレスまでお送りください。宛先はP15に記載。1月18日(月)必着。なお、当選は発送をもって代えさせていただきます。

らと思います。今回、『山崎豊子スペシャル・ガイドブック』の取材で初めて船場を訪れました。船場を囲む4つの川のうち2つ(西横堀川と長堀川)は埋められてしまいましたが、「船場狂い」(しぶちゃん)に所収)に登場した大手橋(P2)は現存していて印象深かったです。船場にはまだ昔ながらの建物も多く、残し続けてほしいですね。

お酒の基礎知識から
味わい方まで



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

◎今月の授業

【日本酒】

2016年2月講座

「適材適酒 — 沢の鶴 きき酒セミナー —」

講師／矢吹道行 (沢の鶴株式会社 製造部醸造課 主任)

新酒のシーズン到来！ 灘五郷の西の雄・
沢の鶴に学ぶ、日本酒の楽しみ方。

酒どころとして有名な神戸の灘五郷において、西の雄と言えば沢の鶴だ。現在も酒造りを続け、その歴史を現代に伝えるために古い酒蔵を沢の鶴資料館として公開するなど、日本酒文化の発信にも力を入れている。

その沢の鶴のルーツが、実は大阪だったことをご存じだろうか。享保2年(1717)、「浪速十人両替」の一人に数えられた米屋平右エ門の別家である米屋喜兵衛は、船場の平野町で米屋を営むかた

わら灘で酒造りを始め、店でも売るようになった。これが沢の鶴の起こりであり、本店は堺筋と平野町通の交差点の北西角にあった。

今回の講座では、大阪とそんな縁を持つ沢の鶴の方を講師に迎え、日本酒の楽しみ方を伝授していただく。味のタイプや温度による変化から、醸造方や用語などの基本的な知識まで、奥深い日本酒の世界をご案内。4タイプの日本酒を味わいながら、自分に合った飲み方・選び方を見つけよう。



明治時代の本店の写真をみると、現在もラベルによく使われている「※」のマークが屋根の上の塔の部分に掲げられている。これは米屋平右エ門が中之島などの蔵屋敷に出入りしていた頃に掲げていたものだという。

今回試飲できる4タイプの日本酒



募集要項	「適材適酒 — 沢の鶴 きき酒セミナー —」	
	日時／2016年2月19日(金) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～) 会場／中央電気倶楽部 受講料／3,000円(きき酒4種あり) 定員／80名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／沢の鶴株式会社	お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学2月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付後、1月20日前後より受講票をお送りします。 ※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。※未成年の方のご応募はお断りいたします。※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第二十二回 高島幸次

落語は、聴き手の脳内に物語を映像化して楽しむ芸だ。そのため、笑いを誘うナンセンスな言動のベースには、リアルな日常生活を設定していることが多い。そのほうが映像化しやすいからである。

しかし、数ある噺の中には、奇想天外すぎて映像が浮かびにくいネタもある。『さくらんぼ』（江戸では『頭山』）は、その代表作だ。

ある男がサクラノボを種ごと食べたため、頭から芽が出て桜の太木になる。隣人らが、桜の下で花見する。花見客が騒がしいので、男は桜木を引き抜く。その跡にできた穴に雨水が溜まって大きな池になる。隣人らは池に舟を漕ぎ出して釣りをする。釣針が男の顔に引っ掛かると、男は怒り狂って池に身投げする、という何ともシニールな噺だ。

この噺の元ネタは、吉田兼好『徒然草』にある「堀池の僧止」らしい。自坊の立派な榎木のせいで「榎木の僧止」と渾名された僧侶が、榎木を伐採すると、今度は「切杭の僧止」と呼ばれた。そこで切り株を掘り起こしたら、その跡が大きな堀になり

「堀池の僧止」と呼ばれた、というナンセンスではあるが、シニールとまではいえない噺だった。

「榎木の僧止」の映像化は容易だが、『さくらんぼ』は難しい。ところが、アニメ作家・山村浩二はこの噺を映画化し、国内外の映画賞を総なめにした（2003年『頭山』）。山村の才能なくして考えられない映画化だった。

シニールの向こうのリアル。

さて今月の「天神寄席」では、この噺をパペット落語の笑福亭鶴笑さんが演じる。パペット落語は、シニールを突き切った向こうにリアルを感じさせる不思議な芸だ。果たして、パペット落語は山村アニメを超えて得るのだろうか。

鼎談のゲストは、奇想の作家・久坂部羊さん。パペット落語『あたま山』の感想をお聞きしてみたい。

たかしまこうじ
大阪大学招聘教授、追手門学院大学客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

奇抜な発想に唸る1月寄席。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。今年も、シニールな噺が集まった「世にも奇妙な落語会」で幕を開ける。日常のワンシーンを通り越した噺の筋は、頭をやわらかくして楽しむべし。ゲストはこの秋に著書『無痛』『破綻』がTVドラマ化された作家の久坂部羊さん。フィクションが映像化された舞台裏が聞けるかもしれない。

●1月のお題は「シニール」

1月25日(月)

「奇想天外の落語会」

落語／桂雀太「粗忽長屋」

笑福亭鶴笑「あたま山」

笑福亭鶴志「胴斬り」

森乃福郎「太閤の白猿」

林家染二「蛸芝居」

鼎談／落語の奇想、小説の創意

久坂部羊 作家

高島幸次 大阪大学招聘教授

桂春之輔

ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席」の前売チケットをナカノシマ大学で買くと、2300円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウエブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／1月25日(月)

時間／6:30PM(開場6:00PM)／受付開始5:45PM)

受講料／2300円(通常…前売2500円／当日3000円)

支払い方法／当日5:45PMより、繁昌亭前に仮設の「ナカノシマ大学受付」にて精算。

※予定枚数に達し次第、販売終了します。

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP10を参照してください。

●問い合わせ ☎06-4799-1340(平日10:00AM～7:00PM)



リアルで生々しい人間模様の医療小説を生み出した久坂部羊さん。その発想はどこから？

林家染二さんの「蛸芝居」は、鳴物入りでにぎやか。今回のトリにふさわしいナンセンスな噺だ。



イラスト／フジワラトモコ



第2回「酒の旅・にいがたを愉しむ」

講師／木村衣有子(文筆家・『のんべえ春秋』編集発行人)



撮影／亀見太治

『のんべえ春秋』というお酒のミニコミ誌を編集発行し、女性誌や文芸誌、グルメ誌など幅広い雑誌に執筆する木村衣有子さんが、国内最多の蔵元数を誇る酒どころ新潟でリスペクトしている酒蔵、居酒屋を通して見てくる「酒の国・新潟」の奥深さ、愉しみ方を伝授します。

きむら・ゆうこ 栃木県出身。立命館大学卒。うまい酒や素敵な酒器、いい酒場を嗅ぎ分け、『のんべえ春秋』編集発行人として活躍。著書に『京都カフェ案内』(平凡社)、『はじまりのコップ』(亜紀書房)、『銀座ウエストのひみつ』(京阪神エルマガジン社)など。



第3回「朝ごはんから見る新潟の食文化を訪ねて」

講師／坂本廣子(料理研究家)



新潟県内の温泉宿が5年前に始めた「にいがた朝ごはんプロジェクト」は、米どころ新潟のコシヒカリをその土地の食材とともに食す企画として大好評。伝統食や「食」を通じた村おこしに詳しい料理研究家・坂本廣子先生が「にいがた朝ごはん」と、地域に息づく新潟の食材、食文化を紹介します。

さかもと・ひろこ 神戸市出身。同志社大学卒。幼児期からの食育を30年以上前から提唱し、介護、防災、食の村おこしなどにも取り組む。米粉の活用法を初めて紹介。著書に『朝ごはん』(少年写真新聞社)、『村おこしは包丁のリズムにのって』(農文協)など。

第2回「酒の旅・にいがたを愉しむ」

2016年1月27日(水)

第3回「朝ごはんから見る新潟の食文化を訪ねて」

2016年2月24日(水)

18:30～20:00 ※いずれも開場18:00

会場／アサヒ ラボ・ガーデン(梅田・大阪富国生命ビル4F)

受講料／無料(新潟県のおみやげ付き) 定員／50名

主催／新潟県観光協会大阪観光センター

協力／アサヒ ラボ・ガーデン

運営／新潟のええとこ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、fax、もしくはナカノシマ大学HP(<http://www.nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、faxでお申し込みの方で複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記し、講座名と開催日を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいがたゼミ」係 Tel.06-4799-1340(平日10時～19時) Fax.06-4799-1341 ※締切=1月講座は1.15(金)、2月講座は2.12(金) 必着。応募者多数の場合は抽選。受講票は当選の方にのみ、締切から5日以内に受講票を発送します。



うまさ ぎっしり 新潟

美味しい地酒とごはんの 新潟がより近くなりました。

北陸新幹線の開業で二気に近くなった新潟。国内最多の個性豊かな酒蔵や、新潟産コシヒカリを地元食材を使って工夫を凝らしたおかずで食す「にいがた朝ごはんプロジェクト」が楽しめる温泉宿は、旅好きを呼んでいる。

今年もおかげさまで大人気！
関西人のための「新潟のええとこ・うまいもんゼミナール」

新潟県へのアクセス

- JRの場合(大阪駅から)
・特急サンダーバード→北陸新幹線(金沢駅経由糸魚川駅・上越妙高駅) 約3時間50分
・東海道・上越新幹線(東京駅経由新潟駅) 約4時間30分
- 飛行機の場合(大阪伊丹空港→新潟空港)
約1時間05分(1H10往復)
- 車の場合(吹田IC～新潟中央IC)
・名神高速道→北陸自動車道 約6時間30分

第2回・3回の会場は



梅田・富国生命ビル4階の多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。読書にデスクワークにひと休みに……自販機もあり、快適かつ使い勝手のいいフリースペースで人気です。

11:00AM～8:00PM 日曜休(年始は1/6から)
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/index.psp.html>

トウニン月報

2016年1月1日発行

情報が満載の 「中之島スタイル・com」 リニューアル



中之島の魅力を発信してきたWebサイト「中之島スタイル.com」が、これまでのコーナーをより充実させてリニューアルオープンした。地権者企業から成り立つ「中之島ま

ちみらい協議会」が運営して

おり、まさに島民の島民による島民のための情報サイトといっ

れることも多いそう。遊びに仕事に、頼られる場面もますます増えるだろう。



中之島スタイル.com
<http://www.nakanoshima-style.com>

中之島スタイル 検索

光と水にあふれた大阪を 読み解くための1冊

中之島の水辺や橋のライトアップをはじめ、大阪では「光」をキーワードにしたイベントや街づくりが進んでいる。先日行われた「大阪・光の饗宴」もまた、その一つの大きな展開と言える。



『光のまちをつくる
～水都大阪の実践～』

編著／橋爪紳也＋
光のまちづくり推進委員会
定価／本体2,800円＋税
判型／A5判・並製
本文224ページ(うちカラー56ページ)

私たちがふだん目にする風景や何気なく楽しんでいるイベントがどのように形づくられているのかを知ることが出来る。

(大迫力・本誌)

とめられた。現在、書店にて発売中の『光のまちをつくる』水都大阪の実践』では、橋爪さんをはじめとする関係者が、それぞれの立場から論考を執筆

実際の光をテーマにした街づくりの経緯が詳述されているほか、ライトアップの手法といった実践的なテーマから、大阪という都市における夜景や光の文化的考察なども含まれている。

スターとフィニッシュはヤンマースタジアム長居。その往復コースには、大阪城、中之島、御堂筋という3つのポイントが盛り込まれている。コースの特徴として、高低差が少ない平坦な道が続くので、好記録をマークしやすいそう

だ。中之島界隈のジョギング人口増加を見ていると、走りやすいというのにも納得。川沿



冬の中の島を駆け抜ける 大阪国際女子マラソン

いの縁や近代建築など見所が多いのも、気持ちよく走ることが出来る要素なのだろう。

第35回 大阪国際女子マラソン
日時／1月31日(日)
時間／ヤンマースタジアム長居0:10PMスタート
※「2016大阪ハーフマラソン」も同時刻に大阪城公園東側・玉造筋をスタート
問い合わせ／☎06-6633-9632
(大阪国際女子マラソン事務局)
<http://www.osaka-marathon.jp/>

奈良県信貴山のおもとにある旅館から和食の技を受け継ぎ、素材のうまみを活かした仕事ぶりをいかなく発揮していた「十三屋」。新天地の大阪中之島で3周年を迎えたことをきっかけに、未踏だった「肉」の領域の開拓が始まっている。カウンター越しに置いた網の上で、料理長の井村浩一朗さんが牛肉を操る。火が通った表面と赤身のグラデーション、にじみ出る肉汁の様子や香ばしい匂いがダイレク

トに伝わるライブ感、リニューアル前の懐石料理中心のスタイルでは味わえなかったものだ。炭火焼きと懐石料理、一見相反するもののように思える。井村さんは「まだまだ牛肉については勉強中です」と謙遜するものの、焼き上がった肉に合わせて本わさびをすりおろしたり、同じく網でさつと焼いた野菜とも相性がいい自家製ポン酢を添えたりと、和の要素を忘れない。それが、脂が程よ



こだわりの塩やわさび、ポン酢でいただくステーキ。仙台牛は3,240円、神戸ワインビーフは4,860円(数に限りあり)。季節野菜もたっぷり添える。

ブランド牛を足がかりに。割烹への新しい挑戦。

【奈良 十三屋】 ●炭火焼かつぼう



夜はワインと相性がいいローストビーフ(1,296円)、昼は野菜をたっぷり使った女性に人気の花昼膳(3,240円)など、活躍するシーンが広がった。

くのった肉をさつぱりと食べられる秘訣でもある。

「同じ『焼く』という調理法でも、脂の入り方を見つづ、微妙な調整に気を使いますね。部位はもちろん、ブランド牛の種類によっても肉の性質が違いますから」

井村さんが絶賛するのは、炭火焼メニューの花形である「神戸ワインビーフ」。業界では比較的新しいブランド牛だが、ワインを作るうえで発生するブドウの搾りかすを牛に食べさせているおかげか、脂が甘くて口当たりがいいのだという。脂をしつかり楽しみたいお客さんには仙台牛を勧める。東北のブランド牛は東京で消費されることが多いので、大阪でメインに扱われるのは珍しい。「ゆくゆくはブランド牛の種類を増やして、食べ比べも試していただけるようになれば」。

今、外国人観光客に圧倒的な認知度を誇るのが、神戸牛なのだろう。新しい神戸のブランド牛を使い、和と融合させた新しい食べ方を提案することで、和食にもまた新境地が開ける。店の技とは、伝統を守るだけではない。

祝 祭 へ よ う こ そ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング



奈良 十三屋

●中之島フェスティバルタワー2F

11月にメニューや店構えを一新し、炭火焼と割烹中心の展開へ。ブランド牛を使った炭火焼に合わせてワイン(グラス648円〜ボトル3,240円〜)も揃えている。日本酒目当てなら、炭火で炙った一夜干しや煮物といった肴もスタンバイ。☎06-4708-8138 11:00AM〜3:00PM(LO2:00PM) 5:00PM〜11:00PM(フードLO10:00PM/ドリンクLO10:30PM)

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店/梅田 鳥屋書店/紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店/ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 【公共施設・大学関連施設など】アイスポット/朝日カルチャーセンター/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア・大阪梅田サテライト/川の駅はもけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立まい情報センター/少彦神社/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス 【店舗・医院など】アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前競料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/エルマーズグリーン コーヒーカウンター/大西洋服店/OOO(オー) /カセット/喫茶センター/喫茶SAWA/グランスイート中之島/黒門さかえ/コンカフェ/The Court/サウワ花店 中之島本店/ザ・メロディ/シアトルベストコーヒー新聞ビル店/じろう亭/Giron's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャノ/パストラーレ/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/フレイルハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 【店舗・医院など】あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/Books 呼文堂/水嶋書房 くすはモール店/大阪狭山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画部広報・学芸連携事務局/大阪大学 21世紀記念館/大阪大学本部/摂南大学 地域連携センター/野村呼文堂/郵政考古学会/ゆったりんこ/連携ラボ 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のはとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンボゾン/百練/奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーエ(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告「鳥瞰図」の誘惑。

空を飛ぶ鳥の目線で描かれた鳥瞰図。中之島も幾度となく描かれてきたが、
人々を惹き付けてやまない理由はどこにあるのだろうか。

●『月刊島民』vol.91は2016年2月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社



ぎょうは、どこいこ、京阪で。

in KYOTO, on KEIHAN.

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車